



特集  
おめでとう。  
東北公益文科大学創立10周年



## 21世紀の新しい公益社会の デザインを先導

～公益大創立10周年記念に寄せて～

東北公益文科大学学長  
**黒田 昌裕**

東北公益文科大学は、おかげさまで、創立10周年の記念式典を10月23日に開催する運びとなりました。この庄内に4年制の大学をという住民の方々の熱い想いが、1996年の山形県と庄内14市町村の代表者による大学整備検討調整会議の開催となり、議論が実って、2001年に創設の運びになったと伺っております。いま、10年という節目を迎え、ここまで大学を支えていただいた地域住民の方々、そして、県、市町村の行政を担ってこられた方々のたゆまぬご支援とご鞭撻に心から御礼を申し上げます。

創立以来、大学は、「新しい公益社会」の実現を目指して、大学名に「公益」を冠し、公益学の学問の創生を目指して歩んで参りました。21世紀のグローバル社会を迎えて、いま社会は物質的な豊かさのみではなく、真の意味での「安心・安全」が保障される社会を求める時代を迎えています。日本国憲法は、個人々の基本的人権を国が保障すること、そして市民はその基本的人権を濫用してはならないと規定しています。東北公益文科大学は、まさに安心・安全をもって、この憲法の実現できる公益の社会をデザインし、その実現に向けて努力すること、そして、それを先導する人材を社会に輩出することを、建学の精神に置いて、大学を構築してまいりました。この庄内は、公益実現にむけさまざまな歴史を重ねてきた地域だといわれています。21世紀の新しい公益の実現は、決して簡単なことではないと思えます。しかし、それだからこそ、市民一人一人が自覚と責任をもって、その構築に挑戦すべきであると考えています。次代を担う若者たちに、厳しく、真摯に、この想いを伝えて、世に送り出すことが大学人の役割だと思っています。

この節目のときを迎えて、これからの大学が、地域の方々の更なるご期待に応えるべく、一層の努力と研さんを積み重ねていくことを、大学教職員スタッフ一同、そして在学生、卒業生諸君とともにお願い申し上げます。真の人間性の追求、こころの豊かさの追求、そして、21世紀の人類にふさわしいデモクラシーのあり方を模索し、構築していかないかぎり、21世紀の人類と社会の持続的な発展はありえないと考えています。庄内のこの素晴らしい自然環境の特性と歴史の伝統を活かして、いかにユニークな地方の姿を創っていくか、大学がそこで、どのような役割を果たせるかという地域に根ざした大学の課題に、建学の精神を糧として、地域の方々とともに挑戦していかなければなりません。倍旧のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。



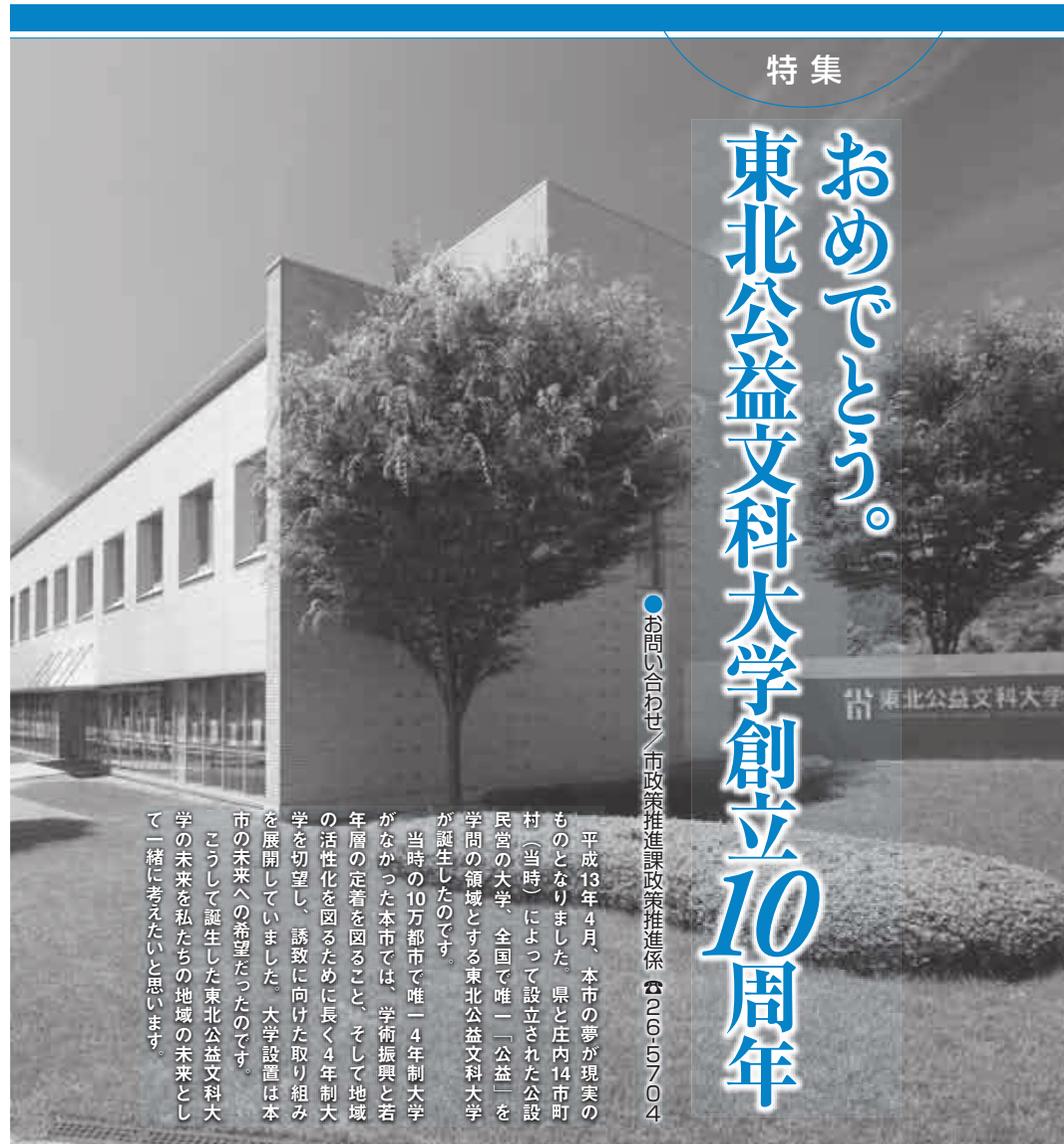
平成18年3月/公益研修センター(公益ホール)完成  
同年4月/公益総合研究所開所  
同年5月/地域共創センター開設  
平成20年6月/黒田昌裕氏が学長就任  
平成21年4月/4つのコースを制定  
同年5月/テンプル大学ジャパンキャンパスと協定を締結  
平成22年5月/中国黒龍江省の東北林業大学と協定を締結

特集

# おめでとう。 東北公益文科大学創立10周年

お問い合わせ 市政策推進課政策推進係 ☎26-5704

平成13年4月、本市の夢が現実のものとなりました。県と庄内14市町村(当時)によって設立された公設民営の大学、全国で唯一「公益」を学問の領域とする東北公益文科大学が誕生したのです。  
当時の10万都市で唯一4年制大学がなかった本市では、学術振興と若年層の定着を図るため、そして地域の活性化を図るために長く4年制大学を切望し、誘致に向けた取り組みを展開してまいりました。大学設置は本市の未来への希望だったのです。  
こうして誕生した東北公益文科大学の未来を私たちの地域の未来として一緒に考えたいと思います。



誘致から現在までのあゆみ

平成7年2月/県新総合発展計画の基本計画と主要プロジェクトに大学設置の位置付け  
平成8年4月/庄内14市町村と県が大学整備推進室を開設  
同年7月/庄内14市町村と県の代表者で構成する大学整備検討調整会議が初会合  
平成10年1月/大学の設置場所として2市5町12か所が名乗りを挙げる  
同年3月/第8回大学整備検討調整会議で学部を本市に、大学院を鶴岡市に置くことを了承  
平成11年3月/学校法人庄内地域大学設立準備委員会発足  
平成12年4月/酒田市に東北公益文科大学開学準備室を開設  
同年12月/大学設置と学校法人寄付行為が認可  
平成13年4月/東北公益文科大学開学  
初代学長に小松隆二氏就任  
平成14年4月/聴講生制度導入  
同年5月/ニュージラランド研究所発足  
平成15年4月/教員養成課程開設  
平成17年3月/第一期卒業生  
同年4月/大学院公益学研究所/公益学専攻修士課程を鶴岡市に開設。社会福祉士国家試験受験資格取得課程導入



水が合うといいますが、  
私には酒田の風が合っている気がします

伊藤 裕輔氏  
(卒業第1期生/真空川町出身/酒田エフエム放送(勤務))

卒業論文では、酒田市名誉市民である加藤千恵氏の音楽教育に見る公益性をテーマにしました。まずは自分の人生を豊かにし、その上で仕事や趣味など自分の好きなことを通じて社会に貢献することが大切だと学びました。

大学時代に仲間たちとラジオサークルを立ち上げ、その後、ラジオを仕事にしました。私自身も自分の人生に責任を持ち、地域密着のコミュニティラジオという仕事を通じて、第二のふるさと酒田に貢献したいと考えています。

公益は社会に役立つこと  
仕事の中で生かしています

高橋 朋子さん  
(卒業第1期生/山形市出身/酒田共同火力発電(勤務))



大学では廃棄物や企業のISO取得について学びました。公益を一言で説明することは難しいのですが、何かしらの社会の役に立つことと理解して行動してきました。現在は電気を安定的に供給するという公益性の高い仕事に就いており、学んできたことを生かせるのはうれしいことです。

10周年を迎えた公益大は、自然も人も豊かな酒田にある大学。ほかではできない取り組みができる大学として、特色を出してほしいと思います。

学生の学び  
フィールドは地域



4つの学び

公益学部、公益学科の1学部1学科。その中の4つのコースで学んでいます。

◎政策マネジメントコース

主に行政、経済、経営の科目を融合させて学びます。他の大学では別々の学部や学科になる科目を融合させているのは、現代社会の問題を解決するには複眼的な視野が必要だという考えからです。

◎地域共創コース

少子高齢化や産業構造の変化など社会生活の課題への見識を深めつつ、人々をつないで解決する力、

東北公益文科大学

に入学し、本市で学生生活を送っている若者が約8000人、教員は約500人います。どんなことを学び、どんなことを研究しているのでしょうか。

共創力を養います。課題解決のための実践的な学びを重視しています。

卒業生はまちづくり、地域づくりに取り組む職業で活躍しています。

◎社会福祉コース

社会福祉の理論・歴史、医学・介護の基礎、政策・制度などを学びます。地域福祉専攻と社会福祉士専攻に分かれて知識を深めます。さらに地域の施設の方と連携し実践的な授業も行います。

◎環境サイエンスコース

環境問題への対応だけでなく、安全・安心な社会を創ることを重視して、科学技術と安全、防災、健康、食品の安全などを学びます。卒業生は環境問題の解決に実践的に取り組める業種などで活躍しています。

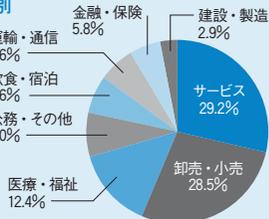
学問の垣根を超えて

平成22年度からは分野の異なる複数の教員が担当する学融合のプロジェクト型演習科目「公益社会演習」がスタートしました。地域や自然の中でのフィールドワークや、多様な主体が参加する

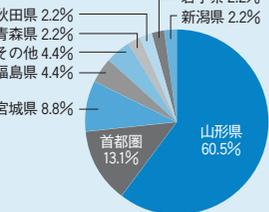
◎平成21年度 卒業生の進路

平成21年度の就職率は90.1%。1期生から昨年の6期生まで就職率は毎年90%を超えています。

◎業種別



◎地域別



最上川の広さに驚く学生は  
多いんですよ

川森 俊策さん(4年生/青森県出身)

大学では、さまざまな科目から公益を学んだ後、専門演習に入っています。今は交通地理学をテーマに卒業論文をまとめています。大学はここ数年でカリキュラムも増えて、学びの内容が大きく変化してきました。学生も積極的な姿勢が必要だと思います。

大学でも続けた野球では、南東北大学野球連盟の一部リーグへ昇格できたことや酒田の中学生や高校生との交流が印象に残っています。中学、高校、大学の学生同士の交流の機会を増やせたらいいですね。

白羽大橋からの眺めが好きです

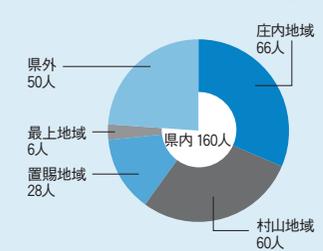
小野寺 彩さん(4年生/岩手県出身)



大学の太陽光発電、酒田市や庄内町の風車を目にして、自分が環境について学ぶ場所はここだと改めて感じたことを覚えています。大学では環境分野を細かく学びます。その基礎があったから新エネルギーという自分の目指すところも見えたと思います。

全国から学生が集まるようになれば、もっと知識の交流も増えて大学が育つと思います。交流という意味では、カフェテリアやメディアセンターを利用してくださる市民の方が増えてくれたらうれしいです。

◎平成22年度 県内・県外別入学者数



庄内地域出身者が最も多く、全体の約30%。県外出身者は東北地域を中心に遠くは島根や福岡からも。

県外入学者内訳/青森、岩手、宮城、秋田、福島、新潟、山梨、岐阜、島根、福岡

ワークショップなどを実施しながら、学問の領域を超えて地域の公益的な問題解決のための提案や活動も行っています。

「大学まちづくり」  
市と大学との連携事業

本市では、大学と一体となって政策課題を検討・解決する仕組みとして「大学まちづくり政策形成事業」を実施しています。

政策の方向性を提案するものだけでなく、大学教職員、大学生、市民、市が一緒になって考え、具体的な事業実施までを委託事業として行っています。昨年度8事業を実施していますが、その中から2つの実践型事業を紹介します。

酒田市における  
芸術文化活動の活性化のための  
調査研究事業

半田 結准教授

市民参加型のアートプロジェクト、ワークショップの実施を通じて課題を抽出し、芸術・文化活動の活性化策の研究を行うものです。今年で5年目を迎え、市民にアートの楽しさを伝えながらまちづくりへの新たな可能性を提案していきます。



▲まちの魅力を探った「アートをめぐる、旅ガイド」

とびしま未来プロジェクト事業

呉尚浩准教授、澤邊みさ子准教授、小関久恵助教

山形県離島振興計画の更なる推進を目指し、課題の整理、具体的施策の検討を進めながら、各種実践事業を展開しています。

主な活動としては、夏休み期間中にとびしまマリンプラザに共創・交流拠点「しまの家」を開設。島に関する資料展示とともに学生が常駐し、来島者に飛島の紹介や観光案内をしました。島民・島の応援団との交流を進め、一緒に飛島の未来を語り合う場としました。



▲しまの家では学生が観光案内を

## 講演会や公開講座へおいでください

### 東北公益文科大学校内プロジェクト公開シンポジウム

同プロジェクト実行委員会 ☎0235-29-0555  
日時/10月22日(金)午後1時30分～5時▶場所/同大学酒田キャンパス教育研究棟3階大教室▶内容/同大学副学長 工藤教和氏の基調講演、調査研究報告、地域の方と同大学教員によるパネルディスカッションで、皆さんとともに「これからの市内地域の発展と大学の役割」について考えます▶費用/無料

### 東北公益文科大学創立10周年記念講演会

時間/午後2時40分～4時10分▶場所/公益ホール▶費用/無料

期日	講師
10/19(火)	トヨタ自動車株式会社代表取締役副会長 渡辺雅昭氏
12/10(金)	国際医療福祉大学学長、慶應義塾大学名誉教授 北島政樹氏

問東北公益文科大学企画広報課 ☎41-1175

### 地域共創センター 公開講座

### FORUM21「公益大10周年 教員紹介シリーズ」

時間/午後6時30分～▶場所/公益ホール2階中研修室▶費用/100円(資料代)

期日	内容	講師
11/17(水)	宇宙のつくりかた	西村まどか准教授
11/25(木)	薄暮時の交通事故防止	神田直弥講師

### 社会起業家育成講座

時間/午後6時～▶場所/公益ホール2階中研修室▶費用/500円(資料代)

期日	内容	講師
10/6(水)	思いを言葉に、言葉を実行に！—G-net9年間の取り組みについて—	NPO法人G-net代表理事 秋元祥治氏
10/13(水)	地方での起業と資金調達	日本政策金融公庫酒田支店長 田中朗氏
10/27(水)	都市と農村の交流による農村の活性化	NPO法人えがおつなげて代表理事 曾根原久司氏

◆この後の日程など詳しくは地域共創センター ☎41-1117へ問い合わせください。



### 4年の間に学業だけでなく酒田の歴史や文化も知ってほしいですね

菊池 恒夫さん(中通り商店街振興組合理事長)

酒田で過ごした学生たちが、活躍している話がおこえくるとうれいしですね。現在は関東で活躍している卒業生の方々が、まちづくりのアドバイザーとして商店街の会議に来てくれたこともありました。

4年制大学が酒田にあるというのは、市民にとっては喜び、大学も学生も積極的にまちに関わってくれる姿勢を感じています。学生が商店街のまつり等に手伝いをしてくれることも度々あります。大学の酒田まちなか未来研究室との連携で商店街のホームページの作成もしてもらいました。学生から元気をもらっている私たちも、街なかで学生が活動できるような体制づくりを検討していきたいと思っています。



全国地域貢献度ランキングで第9位(私立大学では第3位)の評価を受けました(日本経済新聞社経済産業地域研究所が平成21年度に全国の740の大学を対象に行った調査に基づき)

①酒田まつりには毎年参加 ②飛鳥の島民とともに ③地域福祉の現場を学ぶ ④専門演習(ゼミ)での一コマ ⑤硬式野球部が南東北大学野球連盟一部リーグへ昇格 ⑥新定期船とびしま歓迎式典で太鼓演奏を披露 ⑦クラブの一斉奮闘、元気の掛け声とともによきこいソーランを披露



①酒田まつりには毎年参加 ②飛鳥の島民とともに ③地域福祉の現場を学ぶ ④専門演習(ゼミ)での一コマ ⑤硬式野球部が南東北大学野球連盟一部リーグへ昇格 ⑥新定期船とびしま歓迎式典で太鼓演奏を披露 ⑦クラブの一斉奮闘、元気の掛け声とともによきこいソーランを披露

## 地域の中で10年



知りたい、学びたいという欲求は学生に限ったことではありません。市民の皆さんにも大学の先生からお話を聞く各種メニューが用意されています。

### 開かれた大学と市民の学び

#### ◎出張講演・講義

各種団体などの会合で講演等を希望の場合は、「ご相談ください」(有料)。また、高校生を対象にした出張講義(無料)も実施しており、授業のテーマは90種類用意しています。詳しくは「各種団体等」東北公益文科大学教務学生課 ☎41-1116、[高校]同大学入試課 ☎41-1118へ問い合わせてください。

#### ◎市と大学の共催講座

##### 【市民大学講座】

市民の皆さんが対象です。毎年テーマを変えて、さまざまな分野の先生を講師に招いて昼の部と夜の部の講座を実施しています。

##### 【市民大学出前講座】

5人以上のグループ、団体、学

### 酒田での暮らしが定着してきたことが幸せです

武田真理子 准教授  
(東京都出身/社会福祉・社会保障専攻)



酒田にきて10年。それまでは、山の表情が日々こんなにも違うということ知らずにいました。都会と比べても、今あるサービス、環境だけで十分暮らしやすさを実感しています。

地域と地域、地域と行政の間に立ち、調査・調整などをできるのが私たちの大学。この10年で歴史も含めて地域を知ったことで福祉、まちづくりの課題の深さにも気がきました。これからは地域全体を見渡すことができる大学として、より主体的に地域との協働を進めていけると感じています。

### 公益大の学生はまじめで、学ぶ意欲があります

一ノ瀬大輔 講師  
(東京都出身/環境経済学専攻)



なぜ環境問題が起きるのかを人間の生産活動などの経済的側面から理解して、問題の解決策を考えていくのが環境経済学です。実は、今年4月に大学に勤務する前から、民間企業・大学・市で組織する酒田港のリサイクルポートとしての可能性を探るプロジェクトに参加していた関係で酒田とはつながりがありました。資源循環をキーワードに研究している私にとって、リサイクルポートという研究フィールドが目の前にある酒田で勤務できるようになったのも縁でしょうか。

### 地域共創センターの開設

大学本部棟公益キャリアリーナスベースにある地域共創センターは、地域と大学をつなぐ窓口として、平成18年に開設されました。大学が目指す「大学まちづくり」の充実に向けて地域の方々、行政や企業と大学をつなぐ役割を担っています。

#### ◎公開講座 FORUM 21

この秋は、「公益大10周年 教員紹介シリーズ」を企画しています。

#### ◎公開講座 社会起業家育成講座

社会的課題をビジネスの手法で解決する社会起業家について、地方での取り組み事例を学びます。

◆開催日程、内容など詳しくは東北公益文科大学地域共創センター ☎41-1117へ。

### さらさらの飛躍のとき

若者のエネルギーは、私たちに大きな影響を与えてくれます。大学活動でのフィールドワーク、まつりや各種イベントへの積極的な参加、そして数多くのボランティア活動への参加は内外から大きな評価を受け、地域活動をけん引し、活発化させています。

### 私たちに元気をくれる大学を応援しましょう

卒業生は本市を始め全国で活躍するようになり、10年という歴史を刻んできた大学は、まさにこれから飛躍の時を迎えます。今後、本市が公益の拠点として人々が集い学び合うこと、そしてこの地域から全国へ、そして全世界へと公益が大きな潮流となり、広がることに期待が膨らみます。大学が開学当初から掲げている大学まちづくりの理念は「大学がまちをつくり、まちが大学を育む」ということ。この理念の下、地域の繁栄へ向け、本市は東北公益文科大学と共に地域課題に取り組んでいきます。

市民の皆さんからも大学、学生へ暖かい応援をお願いします。

協力・写真提供  
東北公益文科大学